

ツル類のかなり異例な渡来記録 (1995～96年期と1997～98年期) 付、その他の記録

安 部 直 哉 *

Unprecedented Distribution of the Cranes in 1995-96 and 1997-98 Wintering Seasons

Naoya Abe *

序

「鹿児島県出水水平野におけるツル類の基礎調査」は昭和60年度から平成6年度まで10年間継続して実施された。この調査の一部として、ツル類の定期的な越冬地である鹿児島県出水地方と山口県熊毛町を除く主に西日本各地におけるツル類の渡来、生息状況をアンケート調査により毎年調査した。この調査には多数の方々から回答をいただき、多くの新しい知見が得られた。その結果は、編著者の注記と考察を加えて各年ごとに「自然教育園報告」に毎年発表した（千羽・安部, 1987～1996）。なお、このアンケート調査により得られた情報については、さらに検討し報告する予定である。

上記の10年間の調査終了後も、著者（安部）は、出水地方ならびに全国のツル類の渡来状況について注目し、調査を続けている。本報では、(1) 1995年秋期から1996年春期と (2) 1997年秋期から1998年春期にみられた、ツル類のかなり特異な渡来、生息状況について記述、考察し、次に (3) 前述の1985～95年の10年間の調査に関連のある主に九州でのその後の記録の一部と (4) その他の記録を記した。

本文に先立ち、ツル類の記録を提供して下さった次の方々にお礼申し上げる。

大久保岩人、浦川虎郷、財津博文、大田真也、俣田実、小林繁樹、井山明、川上洋造、岡田英孝、井上勝巳、澤田佳長、吉田和人、佐藤信博、有本智、杉山時雄、竹田伸一、佐々木均、大沢八州男、山本照光、葉山政治の各氏。掲載記事を使わせていただいた野鳥雑誌「BIRDER」編集者とこの雑誌に記録をよせられた、小松俊男、岩田真知、所崎聡、所崎香織、三好公恵、三好晃、鈴木博志、牧野洋子、杉坂学、有山智樹、鈴木柳一、桜井京子、宮崎啓子の各氏にお礼申し上げます。

井上勝巳、吉田和人、小林繁樹、有本智の各氏には詳しい資料をいただき、井上、有本両氏の注記の一部は本文中でも採録した。1995～96年期に渡来したソデグロヅルの検討用の写真については遠山忠司、石井昭昭両氏にお世話になった。出水地方のツル類の特に渡来、渡去状況の情報を毎年ご教示いただいた又野末春氏にも深く感謝する。

* 奈良県天理市前栽町223, B102, Senzai-cho 223, B102, Tenri-shi, Nara Prefecture

調査方法と結果の記述方法

前述の10年間の調査後も各地のツル類の生息状況に注目していたが、興味深い状況が見られた1995～96年期と1997～98年期について特に資料を集めた。

入手した資料は、年月日順に地域を考慮して並べ、ツル類の渡来、生息、移動状況を検討し、適宜に注記を入れて解説した。

調 査 結 果

1. 1995年秋期から1996年春期の記録

- (1) 1995年11月26日。ナベヅル成鳥5羽と幼鳥2羽。千葉県館山市広瀬。
- (2) 1995年12月10日。ナベヅル成鳥1羽と幼鳥1羽。静岡県静岡市浮島。
- (3) 1995年12月20日。ナベヅル成鳥5羽と幼鳥2羽。愛知県西尾市小栗町。
- (4) 1995年12月23日。ナベヅル成鳥5羽と幼鳥2羽。愛知県西尾市南奥田町。
- (5) 1995年12月25日。ナベヅル1羽（成幼不明）。愛知県幡豆郡一色町清水新区。
- (6) 1995年12月27日。ナベヅル成鳥5羽と幼鳥2羽。愛知県西尾市南小栗町。
- (7) 1996年1月1日。ナベヅル2羽（成幼不明）。愛知県幡豆郡一色町清水新区。
- (8) 1996年1月20日。マナヅル成鳥1羽。岐阜、愛知の両県域、長良川立田大橋の上流域。
- (9) 1996年2月4日。ナベヅル成鳥5羽と幼鳥1羽。三重県南牟婁郡御浜町。
- (10) 1996年2月6日。同上、同上所。

注記1.1 上述の記録(1)のナベヅル成鳥5羽と幼鳥2羽の1群は千葉県館山市で初めて観察され、以後、記録(3)ほかの愛知県に移動し、さらに記録(9)、(10)の三重県に移ったと推察される。著者は記録(10)の1996年2月6日に観察した。この6羽の1群は、幼鳥1羽をつれた番い、幼鳥をつれていない番い、1羽の成鳥の構成であった。愛知県から三重県に移動した間に幼鳥1羽が減少している。地元の人からの聞き取りでは、この1群6羽は1996年1月初め頃から観察されている。

同じ地区の田圃にコハクチョウ成鳥2羽も生息し、ナベヅルもコハクチョウも稲の二番穂をさかんに採食していた。この地域には、三重県が「ナベヅルとコハクチョウの渡来、保護を告示する」看板が立てられていて、2種とも、落ち着いて採食を続けていた。

なお、このナベヅルは同地域で無事に越冬した。

- (11) 1996年3月23, 25日。ナベヅル成鳥7羽。石川県加賀市篠原新町。
- (12) 1996年4月4, 5日。ナベヅル成鳥1羽。石川県小松市佐美町。
- (13) 1996年4月3～6日。ナベヅル23羽。（成幼の羽数不明）。秋田県由利郡仁賀保町。
- (14) 1996年4月4～7日。ナベヅル29羽。（成幼の羽数不明）。秋田県南秋田郡大潟村。
- (15) 1996年4月4日。ナベヅル4羽（成幼の羽数不明）。北海道石狩郡当別町。
- (16) 1996年4月4日。ナベヅル2羽（北海道新聞に掲載された写真では2羽とも成鳥である）。北海道苫小牧市植苗。
- (17) 1996年4月8～14日。ナベヅル56羽。北海道瀬棚郡今金町。ナベヅル32羽、北海道上磯郡知名町（以上、成幼の羽数不明）。
- (18) 1996年4月13日。ナベヅル16羽（成幼の羽数不明）。北海道瀬棚郡桧山町若松。

注記1.2 1996年5月2日付北海道新聞によると「4月中に道内知内町、松前町、大成町、余市町、苫小牧市などで延べ50羽ほどが確認された」という。

注記1.3 例年、出水地方で越冬しているナベヅルの渡去盛期は3月中、下旬であり、1996年春季の渡去期に石川県、秋田県、北海道で観察されたナベヅルは、出水地方を出発した個体である可能性は高い。本州、北海道を経由するツル類の移動や越冬個体は昔には存在したであろう。しかし、著者の知る限り、最近35年間には、1995年秋季と1996年春季のように多数のナベヅルが本州と北海道で観察された記録はない。

1996年春季の出水地方におけるナベヅルの渡去の記録が不明なのであるが、地上約3kmに相当する700hPa高層天気図を調べてみると、3月18、19、22、23、25、26、30日、4月1、2、3日には九州から本州の日本海側、朝鮮半島の上空にはかなり強い西風が吹いているので、上述のナベヅルは、出水から北上する渡りの途中で、この強い西風の影響を受けて、通常の渡りの進路を外れた可能性が高い。翌1996～97年期には、1995～96年期のようなナベヅルの出現はなかった。

2. 1997年秋季から1998年春季の記録

- (1) 1997年10月30日、8時45分。ナベヅル15羽。大阪府泉南市臨空南浜の上空から海岸線沿いに飛来し、男里川河口を越えて南西（和歌山県）方向に。
なお、このナベヅル15羽の1群は、当時、泉南市在住の佐藤信博氏によって観察、撮影された。大阪府内でのツル類の初記録。
- (2) 1997年10月末から11月6日。ナベヅル10羽が渡来、後に7羽になり、6日には4羽に減少。和歌山県西牟婁郡日置川町野井～大古。
- (3) 1997年11月1日。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥2羽。夕方に確認。愛媛県大洲市新谷。
- (4) 1997年11月1日、正午前。種不明のツル5羽。愛媛県南宇和郡一本松町広見の上空。
- (5) 1997年11月1日。マナヅル成鳥1羽。高知県中村市。
- (6) 1997年11月2日。ナベヅル成鳥16羽と幼鳥2羽。徳島県阿南市中林町米島。数日前から渡来。
- (7) 1997年11月3日、16時50分。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥2羽。大洲市新谷。飛び立って佐田岬半島方向に去る。(3)と同じ個体。
- (8) 1997年11月3日。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥1羽。高知県宿毛市和田。
- (9) 1997年11月3日。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥1羽。中村市。(5)のマナヅル1羽と一緒に。
- (10) 1997年11月3日。ナベヅル成鳥10羽と幼鳥2羽。和歌山県有田郡美浜町和田不毛。
- (11) 1997年11月4日。ナベヅル12羽。同上所。
- (12) 1997年11月4日。ナベヅル7羽。同上所。
- (13) 1997年11月5、6日。ナベヅル成鳥6羽と幼鳥1羽。同上所。
- (14) 1997年11月5日。ナベヅル成鳥20羽と幼鳥3羽。徳島県阿南市中林町。
- (15) 1997年11月7、8日。和歌山県有田郡美浜町和田不毛、ナベヅル観察されず。
- (16) 1997年11月7日。ナベヅル4羽。和歌山県美浜町市木。
- (17) 1997年11月7日。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥1羽。宿毛市和田。
- (18) 1997年11月7日。ナベヅル成鳥1羽。愛媛県西条市蛭子、初認。11月17日終認。
- (19) 1997年11月8日。ナベヅル22羽。中村市。

(20) 1997年11月8日。ナベヅル4羽。高知県土佐清水市清水, 足摺岬付近の上空。

(21) 1997年11月9日。ナベヅル成鳥20羽と幼鳥2羽。中村市具同。ほかにマナヅル1羽の情報もあったが観察できず。

注記2.1 秋・冬期にユーラシア東部から出水地方にツル類が多数渡来する月日は、ユーラシア大陸東部の寒波の出現と南下状態によく一致している(安部, 未発表)。1997年秋のユーラシア東部の気候は比較的温暖であったので、出水地方へのツル類の渡来も全体的におそかった。又野末春氏からの情報によると、出水地方へのツル類の渡来数は、1997年10月24日にはナベヅル339羽, マナヅル51羽, カナダヅル1羽の計391羽であった。その後、大陸に寒気が発生, 南下し、数日間に多数のツル類が渡来し、10月30日朝には、ナベヅル約2,800羽, マナヅル約1,500羽になった。

詳しい記述はここではしないが、この間の地上天気図と700hPa高層天気図を調べると、700hPa高層天気図では24日9時には、この秋一番の寒冷な低気圧が中国東北部を東進、25、26、27、29、30日には特に九州から本州中部上空には強い西北西の風が吹いている。

10月30日に大阪府泉南市で観察された15羽1群のナベヅルは、この時期の強い西北西の風に流されて来たのであろうと推測される。

注記2.2 井上勝巳氏による注では、(21)の中村市のナベヅル22羽については「11月9日の時点では、徳島県阿南市で観察された群れが移動してきたものと推測したが、阿南市では同規模の群れが観察されていることから、高知県中村市へは別の群れが渡来したと考えられる」とされている。しかし記録を再検討すると、両地方で同時期に、同じ規模の群れは観察されていないようである。

(22) 1997年11月9日。ナベヅル6羽。和歌山県美浜町和田不毛。

(23) 1997年11月10~14日。同上所にナベヅル観察されず。

(24) 1997年11月11日。ナベヅル3羽。愛媛県南宇和郡城辺町豊田の上空。

(25) 1997年11月12日。ナベヅル成鳥16羽と幼鳥3羽。マナヅル成鳥1羽。阿南市中林町。

(26) 1997年11月12日。ナベヅル成鳥10羽と幼鳥2羽。愛媛県東宇和郡宇和町山田。

(27) 1997年11月15日、16日、20日。ナベヅル成鳥10羽と幼鳥2羽。同上所。

(28) 1997年11月15日。ナベヅル1羽。愛媛県一本松町広見。

(29) 1997年11月15日。ナベヅル4羽。愛媛県一本松町増田。

(30) 1997年11月15日。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥1羽。和歌山県美浜町和田不毛。

(31) 1997年11月16日。ナベヅル成鳥3羽、6羽、10羽の計19羽。この10羽は成鳥6羽と幼鳥4羽。さらにマナヅル1羽。同上所。

(32) 1997年11月17、18、19日。ナベヅル13羽とマナヅル1羽。同上所。7時に東方に飛去。

(33) 1997年11月18日。ナベヅル12羽。愛媛県城辺町豊田の上空を飛行。

(34) 1997年11月19日。ナベヅル成鳥9羽と幼鳥2羽。愛媛県城辺町樋口。

(35) 1997年11月20日。和歌山県美浜町和田不毛、ナベヅル観察されず。

(36) 1997年11月20日。ナベヅル21羽。和歌山県新宮市、熊野川の中洲。2、3日前から来ていたようである。

注記2.3 (25)の阿南市中林町で11月12日に観察されたナベヅル19羽とマナヅル1羽、(31)の和歌山県美浜町和田不毛で11月16日に観察された同数のナベヅルとマナヅルについては、阿南市での11月12日以後の記録が得られなかったので、両地で観察されたこれらのツルの関連は明らかでない。(36)

の新宮市のナベヅル21羽の大部分はそれまで美浜町和田不毛で観察されていたものと推測される。

(37) 1997年11月22日。ナベヅル成鳥9羽と幼鳥2羽。愛媛県城辺町樋口，西に飛び立つ，終認。

(34) のナベヅルである。

(38) 1997年11月23日。ナベヅル3羽。愛媛県伊予郡松前町出作。この日だけ。

(39) 1997年11月23，24日。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥1羽。香川県観音寺市柞田町三豊干拓地。24日に西方に飛去。

(40) 1997年11月24日。ナベヅル12羽から13羽に。愛媛県宇和町山田。(26)の12羽に，16時0分から30分には成鳥1羽が加わった。

注記2.4 井上勝巳氏の注によると「11月17日に西条市蛭子で終認となったナベヅル1羽（著者注，(18)のナベヅル成鳥1羽のこと）が飛来した可能性がある」

(41) 1997年11月25日。ナベヅル成鳥11羽と幼鳥2羽。愛媛県宇和町山田（上記，注の鳥）。

(42) 1997年11月26日。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥1羽。同上所。

(43) 1997年11月28日，16時0分。ナベヅル5羽。愛媛県松山市古川南の上空，西から飛来し，旋回して再び西に。

(44) 1997年11月29日。ナベヅル成鳥11羽と幼鳥1羽。愛媛県宇和町山田。

(45) 1997年11月30日。ナベヅル2羽。和歌山県美浜町和田不毛。

(46) 1997年12月1日。ナベヅル34羽。同上所。15時頃，この群れを発見するが，北方に飛去。

(47) 1997年12月1日。ナベヅル成鳥3羽のみ。愛媛県宇和町山田。

(48) 1997年12月6日。ナベヅル2羽。和歌山県和歌山市，紀ノ川。

(49) 1997年12月10日。ナベヅル計54羽，成鳥42羽と幼鳥12羽。マナヅル1羽。阿南市中林町。

(50) 1997年12月19日。ナベヅル42羽。同上所。

(51) 1997年12月23日。ナベヅル成鳥4羽と幼鳥4羽。同上所。

(52) 1997年12月23日。9時12分。ナベヅル成鳥20羽と幼鳥3羽，マナヅル成鳥1羽。山口県防府市台道上田開作。その後，10時11分にカメラマンが近づいたので飛び立ち，高空に舞い上がり，10時32分に南西方向に消える。

(53) 1997年12月27日。阿南市中林町。ナベヅル1羽両脚切断，翌日死亡，吉田和人氏によると，11月2日以後，阿南市中村町で記録されたツルは，日中の生息地から2～3 km離れた那賀川河川敷のほぼ決まった川原を塹にしていた。

注記2.5 有本智氏によると，(46)のナベヅル34羽が，以後，和歌山市紀ノ川を塹にした鳥であろうという。

(49)の阿南市中林町での12月10日の記録すなわちナベヅル計54羽とマナヅル1羽が，同所にいつから生息し，どのように減少したのかを示す記録は入手できなかった。しかし，12月23日に防府市台道上田開作に出現したナベヅルとマナヅルには，阿南市中林町を去った個体が含まれていると推測される。

(54) 1997年12月27日から1998年3月15日まで，ナベヅル若鳥1羽が愛媛県西条市禎瑞下，港新地で数回観察された。

(55) 1998年1月3日。ナベヅル16羽。和歌山市東部，紀ノ川で就塹。

(56) 1998年1月10日。ナベヅル25羽。和歌山市東部，紀ノ川の塹に近い藤田，田尾。

- (57) 1998年1月11日, 日中。同上所とその周辺地域にはナベヅル観察されず。
- (58) 1998年1月15日。ナベヅル25羽。和歌山市藤田, 川辺。
- (59) 1998年1月18日。ナベヅル29羽。同上所, 紀ノ川で就埤。
- (60) 1998年1月25日。ナベヅル25羽。同上所。
- (61) 1998年1月27日, 17時28分。下流側左岸遠方から1群れ27羽が飛来, 紀ノ川で就埤。
- (62) 1998年2月1日。ナベヅル22~25羽。和歌山市田家, 藤田, 山口東。
- (63) 1998年2月11日。ナベヅル35羽。和歌山市紀ノ川で就埤。
- (64) 1998年2月15日。ナベヅル35羽。同上。
- (65) 1998年2月16日。ナベヅル成鳥7羽と幼鳥3羽。阿南市中林町。
- (66) 1998年2月16日。ナベヅル35羽。和歌山市藤田。
- (67) 1998年2月21日。ナベヅル9羽。阿南市中林町。
- (68) 1998年2月22日。和歌山市藤田とその付近にツルは1羽も観察されず。埤にも帰来せず。
- (69) 1998年2月23日。ナベヅル成鳥1羽と幼鳥2羽。阿南市中林町。
- (70) 1998年3月5日。ナベヅル成鳥2羽と幼鳥2羽。同上所。

注記2.6 又野末春氏によると, 出水地方で越冬したツル類の1998年春期の渡去初期の状況は, 1月30日にマナヅル52羽が初めて渡去し, 2月中旬までに例年になく多数のマナヅルが渡去した。ナベヅルの最初の渡去は2月27日の6羽で, 次の渡去は3月1日の18羽であった。

和歌山市そのほかの田圃で日中をすごし, 和歌山市東部の紀ノ川の河原で就埤していた最高35羽のナベヅルは, 2月16日を最後に, 1羽も観察されていない。このナベヅルに相当するような他の所での記録は全く得られなかった。出水地方におけるナベヅルの渡去初期の状況から推察すると, 紀ノ川で就埤していたナベヅルも, 上述の時期に北方に渡去したのかもしれない。著者も紀ノ川で就埤するナベヅルを2回観察した。有本智氏も述べるように, 今回のナベヅルの紀ノ川での就埤場所は, 埤として比較的安全な場所であったので, およそ2ヶ月の間, ここを埤にして越冬できたのであろう。しかし, この埤の上下流部は釣り人や川遊びの人が多く, ツル類の埤としては決して好適な環境ではなかった。

注記2.7 1997~98年期の出水地方以外の地域におけるマナヅルの出現記録を検討すると, 下記のマナヅルの記録は, 出水地方からの1998年春期の渡去群から離れた個体と推察される。

- (71) 1998年2月12日。成鳥1羽と幼鳥1羽。愛媛県南宇和郡城辺町久保。
- (72) 1998年2月12, 13日。幼鳥1羽。愛媛県西宇和郡三瓶町蔵貫。
- (73) 1998年3月1日。成鳥1羽と幼鳥1羽。高知県土佐清水市下益野。注記: この記録は(71)と同じ個体の2羽かもしれない。高知県内の今期のツル類の記録はよく集められなかった。

3. 九州における1995~96, 1996~97, 1997~98年期のツル類の記録の一部

今回の調査では, 九州におけるツル類の記録は十分に集められなかったが, 大田眞也氏, 大久保岩人氏ほか数名の方からの記録をこの項で収録した。

3.1 1995年秋期から1996年春期の記録

ナベヅル

- (1) 1995年10月23日から10月30日。13羽。熊本県上益城郡御船町小坂から高木にかけて。

(2) 1995年11月18日。2羽。同郡城南町の浜戸川。

(3) 1995年12月中旬から1996年6月5日。幼鳥1羽（越冬）。同郡益城町堂園の田圃。

マナヅル

(1) 1995年12月10日。幼鳥1羽。上益城郡御船町。

(2) 1995年11月8日。11羽。大分県大野郡緒方町。上空を南西方向に。

(3) 1995年11月9日。4羽。大分県玖珠郡玖珠町山田、笹原切株山の山麓。東方（九重町）に飛び立つ。

(4) 1996年2月17日、16時。50羽（以上）。長崎県壱岐郡ノ浦町半城の上空を南西から北東に飛行。

(5) 1996年2月28日、14時。2羽。壱岐郡芦辺町深江田原におりる。

注記：郷ノ浦町在住の浦川虎郷氏によると、ツル類の休憩地として適していた深江田原が大型圃場整備のため利用できなくなったので、1995年以降、この地域でのツル類の記録は多くない、という。

ナベヅルとマナヅル

(1) 1995年10月28日、20時50分。数羽のツルの鳴き声。長崎県壱岐郡石田町。

注記：以下（12）までの記録は壱岐在住の大久保岩人氏からの情報である。

(2) 1996年2月7日、18時。羽数不明。同上所に到着。2月8日朝、北帰行。

(3) 1996年2月12日。羽数不明。同上所に到着。

(4) 1996年2月13日。20羽。石田町筒城西、夕部新田。2月14日、同地より北帰行。

(5) 1996年2月17日。約60羽。石田町深江田原上空を旋回。18日、同地に滞在。19日、9時0分頃に北帰行。

(6) 1996年2月20日。約50羽、同町に飛来し、夕方に去ったようである。

(7) 1996年2月21日。羽数不明、高空を西に。

(8) 1996年2月23日、18時0分頃。約100羽、石田町深江田原の東南部、鶴田に滞在。翌24日朝、北帰行。

(9) 1996年2月29日。羽数不明、同町に飛来。

(10) 1996年3月3日。20羽、同町に飛来。翌4日朝、北帰行。

(11) 1996年3月8日。羽数不明。夕方、南方の上空から飛来して北へ去る。

(12) 1996年3月10日、19時0分頃。約40羽。石田町鶴田に飛来、滞在。翌11日に北帰行。

注記：出水地方のツル類の北帰行の記録を基に推測すると、上記の（2）から（9）の2月末までの記録の大部分はマナヅルであろう。

3.2 1996年秋期から1997年春期の記録

マナヅル

(1) 1996年10月28日。9羽。熊本県本渡市本渡町広瀬の埋立地。

(2) 1996年11月21日。3羽。同県球磨郡錦町の球磨川河原。

(3) 1996年12月中旬から12月末。4羽。同県八代郡鏡町北新田の田圃。

3.3 1997年秋期から1998年春期の記録

マナヅル

(1) 1998年1月6日。幼鳥1羽。熊本県球磨郡錦町の球磨川河原。

(2) 1998年2月2日。成鳥2羽。同県八代郡鏡町北新地の田圃。

- (3) 1997年10月30日, 16時35分。種不明約120羽。大分県日田郡中津江村, 下笠ダムの上空に東方から飛来して南西に。同じ群が日田郡上津々村フィッシングパーク上空を通過し, 大分県と熊本県の県境, 兵戸峠を越えて熊本県菊地方面に飛去。

4. ソデグロヅル, クロヅルほかの記録

ソデグロヅル

- (1) 1995年12月29日から1996年3月6日まで, 鹿児島県国分市国分干拓地で成鳥1羽が越冬。渡来と渡去の年月日は「BIRDER」誌に掲載されている所崎聡氏と宮崎啓子氏の記録による。
- (2) 1996年4月7日から5月4日まで, ソデグロヅル1羽とマナヅル1羽(幼羽が残る個体)。島根県松江市浜佐田町。渡来と渡去の年月日は井山明氏からの情報による。

注記: 著者は(1)の国分市で越冬した個体を1996年1月22日に観察した。この個体の羽衣は完全な成鳥羽といえるものであった。(2)の個体が(1)の個体と同じか否かを検討するために, 遠山忠司氏撮影の写真をいただいた。1996年4月13日に撮影されたその写真では, この個体の左小翼羽の一部と小翼羽に近い小雨覆に淡褐色の幼羽が残っている。一見, この(2)の個体は成鳥に見えるが, (1)と同一個体ではない。

1995~96年期には, 日本国内には(1)と(2)の記録しかないので, (2)の個体は, 春期の繁殖地への渡りの途中で国外から松江市に渡来し, 約1月間ここに生息したことになる。

クロヅル

- (1) 1997年10月15日。成鳥1羽。宮城県鳴瀬町野蒜(鳴瀬川河口部, 右岸側の田圃)。
- (2) 1997年11月1日から1998年3月9日まで。石川県羽咋郡志賀町館の田圃と羽咋市邑知潟干拓地の田圃を移動。両所に主に生息して越冬。亜成鳥1羽。

注記: (1)の個体は佐々木均氏撮影の記録写真により, 成鳥である。(2)の個体については, その羽衣についての情報が入手できなかったが, 竹田伸一氏の記録であり, (1)とは異なる個体であろう。

ナベヅル

- (1) 1996年12月31日, 成鳥1羽。北海道野付郡別海町上春別の牧草地で発見され, 2月上旬現在, 同所に生息(1997年2月16日付, 北海道新聞による)。注記: この個体のその後の状況については, 情報を入手できなかった。

アネハヅル

- (1) 1995年5月20日。成鳥1羽。北海道川上郡標茶町多和。注記: アネハヅルの記録については, 別にまとめて報告する予定である。

結 び

1. 1995年秋期から1996年春期

1995年11月26日にナベヅル7羽(成鳥5羽と幼鳥2羽)が千葉県館山市に出現し, この7羽と推察される1群が12月20日から27日に愛知県西尾市に生息した。この同じ群れと推察した1群(ただし, 成鳥5羽と幼鳥1羽で, 幼鳥が1羽少ない)が1996年1月初めに三重県御浜町で観察され, 以後ここで越冬した。この越冬地の田圃にはコハクチョウ成鳥2羽も生息していた。この地域には三重県が立

てた「これらの鳥に無闇に近づかないことや誤射を注意する」告知版があり、地元の人々に見守られて越冬できたのであろう。

1996年の渡去期には、3月下旬に7羽のナベヅルが石川県加賀市に出現した。4月初めに秋田県仁賀保町でナベヅル23羽が、同県大潟村でナベヅル29羽が観察され、さらに、4月初めから中旬にかけて北海道南部の数地域で延べ50羽のナベヅルが生息していた。これらのナベヅルは、出水地方から北方への渡りの途中で、当時卓越していた非常に強い西風の影響を受けて、通常の渡りのコースから外れたのであろう、と推察した。

2. 1996年秋期から1997年春期

前年期的ような際立ったツル類の渡来、生息状況はなかった。

3. 1997年秋期から1998年春期

1997年10月30日、ナベヅル15羽の1群が大阪府泉南市の海岸上空低くを和歌山県方向に飛行するのが観察された。これは大阪府でのツル類の初記録である。

この15羽あるいはその一部と推察されるナベヅルが10月末から和歌山県内で観察され、12月から1998年2月中旬まで和歌山市東部の紀ノ川の河原を塹にし、最高35羽がここに就塹した。

四国では多くのナベヅルが記録された。徳島県阿南市には、11月2日の数日前からナベヅル18羽（成鳥16羽と幼鳥2羽）が渡来し、11月5日にはナベヅル23羽（成鳥20羽と幼鳥3羽）、11月12日にはナベヅル19羽（成鳥16羽と幼鳥3羽）とマナヅル成鳥1羽、12月10日にはナベヅル54羽（成鳥42羽と幼鳥12羽）とマナヅル1羽、ほか数例の記録があり、那珂川の河原が塹になっていた。

その状況は明らかでないが、12月28日には阿南市でナベヅル1羽が両脚を欠損し死亡している。

12月23日には、山口県防府市にナベヅル23羽（成鳥20羽と幼鳥3羽）とマナヅル成鳥1羽が出現した。しかしカメラマンが近づき過ぎたために、発見後わずか1時間余りで飛び立ち、高空を南西方向に去っている。防府市に出現したツル類は、阿南市から移って行ったのではないかと推察される。

愛媛県でも、例年より多数のツルが記録された。11月初めには、大洲市にナベヅル4羽（成鳥2羽と幼鳥2羽）が生息していた。東宇和郡宇和町には11月12～24日にナベヅル12羽（成鳥10羽と幼鳥2羽）が生息し、24日には、11月7日から西条市で観察されていたナベヅル成鳥1羽と推測されている個体に加わり、以後、12月1日まで3～13羽が生息した。南宇和郡城辺町では11月13日～22日、ナベヅル10～11羽（成鳥9羽と幼鳥2羽）が観察された。このほかに、松山市、伊予郡松前町などでもナベヅルが記録され、西条市禎瑞下で1997年12月27日に初めて観察されたナベヅル若鳥1羽は1998年3月15日までこの付近に生息し、越冬した。

香川県観音寺市では1997年11月23、24日にナベヅル3羽（成鳥2羽と幼鳥1羽）が観察された。高知県宿毛市、中村市には11月上旬にナベヅル3羽（成鳥2羽と幼鳥1羽）やナベヅル22羽（成鳥20羽と幼鳥2羽）、マナヅル成鳥1羽などの記録がある。以後の情報が入手できず、状況不明であるが、11月上旬に高知県内で観察されたツルの一部は、以後、四国の他県に移ったようである。

1997～98年期には、上述のように、四国4県、山口県、大阪府、和歌山県で異例といえる多くのツルが渡来、生息したが、著者の予想に反して、同じ月日の記録は少なく、これらの地域内でのツルの移動状況は明らかにならなかった。

4. 1998年秋期から1999年春期

前年期のようなツル類の渡来を期待したが、特に注目するような状況はなかった。

5. 1995～96年期以後の熊本県、大分県、長崎県壱岐での記録を記した。さらに、ソデグロヅルとクロヅルの記録を採録した。

文 献

千羽晋示・安部直哉. 1987～1996. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第2, 7, 16, 23, 24, 27, 29, 30, 32, 33報. 自然教育園報告, 第18～27号。